

平成25年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成26年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成25年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成26年3月

観光営業部長 伊藤 恵造

I 総括

1 北陸新幹線金沢開業・舞鶴若狭自動車道全線開通に向けた観光地の魅力向上と誘客活動の強化

- ・ 26年夏の野外恐竜博物館の開館に向けた準備を進めました。また、恐竜博物館が舞台となった映画上映や、東京丸の内での大恐竜展の開催、奥越地域の自然体験などと組み合わせた恐竜ツアー実施など、多くの話題を提供し、知名度が高まったことなどにより、恐竜博物館の入館者数は、過去最高の70万8千人を記録しました。
- ・ 一乗谷朝倉氏遺跡の魅力創出として、遺跡内の電線類の地中化に着手したほか、復原町並での「戦国あさくら市」の拡大開催や、スマートフォンなどで遺跡情報が得られる案内アプリの提供など、食・土産物の提供や案内体制の充実を図りました。また、資料館では、大型企画展や未公開所蔵資料の展示「逸品展」を開催するなど、遺跡全体の魅力向上や利便性向上を図りました。
- ・ 新幹線金沢開業対策として、初めて東京駅周辺で、本県トップブランドの「恐竜」と「食」の魅力を集散的にアピールしたほか、11月には高崎駅と長野駅で、1月には、大宮駅で、大型広告の掲出や出向宣伝を行いました。また、さいたま市で、初めて「越前・若狭の物産と観光展」を開催するなど、首都圏および新幹線沿線からの誘客拡大を図りました。
- ・ 舞鶴若狭自動車道全線開通対策として、若狭地域の文化財の特別公開「みほとけの里 若狭の秘仏」の開催、若狭の新しい食ブランド「若狭路ご膳」の提供店舗の拡大、書籍「若狭・敦賀歴史読本」の全国出版などを行い、若狭路の魅力発信を強めました。また、26年7月から11月まで「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンを実施する実行委員会を立ち上げ、県内区間の愛称を決定するなど準備を進めました。

2 文化施設のレベルアップの着実な推進

- ・ 美術館については、「ミケランジェロ展」および「岡倉天心展」に県内外から10万人を超える方が来場し、特別展の年間入場者数は昭和52年の開館以来最高を記録しました。これらの特別展では、観光面では、大手旅行会社による観覧ツアーや、県内宿泊施設での観覧券付き宿泊プランの実施など誘客拡大につなげたほか、教育面でも、学校鑑賞会などにより県内の小中学生に本物を体験する機会を提供することができました。
- ・ 若狭歴史民俗資料館については、歴史文化の宝庫である「若狭」を学び楽しむ新たな歴史・文化観光拠点「若狭歴史博物館」として名称変更を行い、26年7月下旬にリニューアルオープンできるよう準備を進めました。

3 ふくいの「食」のブランド化と販路拡大の推進

- ・ 食のブランド化は、大手企業と連携した情報発信、大手百貨店や一流ホテルにおける福井フェアの開催などにより、大都市圏の消費者に、本県の食の魅力や良さを直接伝えました。
また、嶺南地域への誘客拡大として、地元市町や観光協会等とともに新鮮な海・里・山の幸を活かした昼食メニューを開発し、86店舗で102メニューが提供されています。
- ・ 食の販路拡大は、首都圏や関西圏などの高級レストランや料亭など109事業者を訪問営業し、新たに22事業者の県産食材使用を実現しました。

4 安心して帰住できる仕組みづくり

- ・ 新ふくい人の招致は、東京、大阪、名古屋に設置したふるさと帰住センターでの定住情報の発信や相談対応に加え、東京、大阪で市町と共働で移住定住相談会を開催するなど相談体制の充実を図り、今年度の新ふくい人招致数は339名となりました。
- ・ ふるさと納税は、市町一体となったPRや、県人会や同窓会などを通じ、62団体延べ6,500人に直接、制度周知と協力依頼を行うとともに、県内の商工会議所や商工会に機関広報誌への掲載、研修等での資料配付等を依頼し、県内企業や県外在住の従業員に対するPRも行いました。

II 「政策合意」項目にかかる結果について

- ・ 別紙「平成25年度 政策合意項目にかかる実施結果報告（観光営業部）」のとおり

平成25年度 政策合意項目にかかる実施結果報告(観光営業部)
(平成26年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>1 観光とブランドを産業の柱に</p> <p>◇ ブランド拡大の営業戦略</p> <p>○「ブランド営業」政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井が舞台となる、テレビ番組や映画、新書、CMロケ地などの誘致・企画実現により、パブリシティ(無償)と併せた情報発信を継続・拡大します。 ・映画制作支援を通じて本県を訪れた映画出演者や監督などの関係者とのつながりを持ち続けることにより、福井の新たなファンを増やします。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本県ブランドの拡大戦略として、恐竜博物館が主な舞台となるテレビ番組や映画が全国放映されたほか、東京丸の内における恐竜展の開催、若狭路の古寺仏像を紹介した書籍の全国出版が実現するなど、パブリシティ(無償)と合わせて、本県の魅力発信を強めました。</p> <p>昨年度から支援してきた本県が主要な舞台となる映画「サクラサク」は、10月に県内各地で本格的な撮影が行われ、26年4月から全国約150館において公開が実現します。映画関係者には、県内撮影中に、県民の応援やサポートを通じて、地域住民と交流を深めていただいたほか、映画PRに併せて本県の魅力を強力かつ効果的に発信していただきました。今後、映画上映と連動したPRを一層強め、新たな本県ファンの開拓に努めます。</p>	
<p>福井が舞台となる テレビ番組、映画、書籍、CM等 5件</p> <p>県全体でのパブリシティ広告費換算効果 19億円 (平成24年度 約18億円)</p>		<p>福井が舞台となる テレビ番組、映画、書籍、CM等 6件</p> <p>県全体におけるパブリシティ広告費換算効果 約19億円</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>○恐竜博物館の新たな魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年夏オープンを目指し、「野外博物館」の発掘体験広場および足跡化石展示施設の整備を進めます。 ・第4次発掘調査など恐竜研究の専門性を追求するとともに、国内外の貴重な恐竜コレクションの収集に努めるなど、博物館の展示内容の充実を図ります。 ・子供に人気があるキャラクターの活用により「楽しさ」を高めるなど、新たな魅力づくりを進めます。 ・地元市が主体となって進めるまちなかダイノスクエア整備や、民間企業等とのレプリカ体験工房の実現に向け、具体化を進めます。 ・ロゴキャラクターによる恐竜ブランド商品の開発や、県内企業が製作する恐竜グッズの監修、都市圏での恐竜展への恐竜骨格貸出しなど、恐竜ブランドビジネスを拡大します。 		<p>〔成果等〕目標を上回って達成しました。</p> <p>野外恐竜博物館については、建設工事を着実に進め、展示内容や施設の運営方法を決定するなど、26年夏の開館に向けた準備を着実に進めました。</p> <p>25年度から29年度までを第4次発掘調査期間として、7月から発掘および発掘化石のクリーニング標本整理等を開始し、今後の新たな恐竜化石発見につなげていきます。</p> <p>また、タイおよび中国との海外共同発掘調査を継続実施し、両国で共同発掘し、恐竜博物館でクリーニングした復元骨格などを、特別展で世界初公開するなど、恐竜博物館の展示内容の充実を図りました。</p> <p>新たな視点から恐竜の魅力を伝えるよう、11月に恐竜が主人公となった絵本の原画、恐竜をルーツとする創作キャラクターの紹介パネルやフィギュア展示などの特別展を開催したほか、館内レストランのリニューアルオープンにより、子ども向けの料理を充実させるなど、子どもたちがより気軽に楽しめるよう魅力づくりを行いました。</p> <p>恐竜博物館を中心とした奥越一帯への誘客の受け皿づくりについては、地元市との協議、民間企業の誘致活動を引き続き実施します。</p> <p>幅広い世代の方に本県の恐竜の魅力を分かりやすく伝えることができるよう、イタリア著名デザイナーにフクイラトルをモチーフとしたネクタイ製作を依頼・販売をはじめたほか、恐竜博物館が監修する商品開発や、大阪市や浜松市で開催された恐竜展への所蔵品貸し出しなど、恐竜ビジネスを継続的に展開しました。</p> <p>2月に本県で発掘された恐竜化石のキャラクターを活用した独自の恐竜ブランドキャラクター「Juratic（ジュラチック）」を発表しました。今後、キャラクターを活用した「恐竜王国福井」の発信とオリジナル商品の開発・販売等を促進し、本県の認知度向上と恐竜ビジネスの拡大を図ります。</p> <p>今年度は、恐竜博物館が舞台となった映画やテレビ番組の全国放映、東京丸の内における大恐竜展や本県の恐竜化石発掘成果を展示した特別展の開催、アジア恐竜協会の設立や国際シンポジウム開催など国内外に多くの話題を提供し、着実に知名度を高めたことから、恐竜博物館の年間来館者数は、12年度の開館以来最大となる70.8万人を記録しました。</p>	
<p>恐竜博物館の入館者数 57万人 (平成24年度 54万1千人) チャレンジ目標 60万人</p> <p>ブランドビジネスの売上規模 2,000万円 (平成24年度 1,500万円)</p>		<p>恐竜博物館の入館者数 70万8千人</p> <p>ブランドビジネスの売上規模 約2,200万円</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 惠造
項目		実施結果	
<p>○恐竜研究機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐竜博物館が事務局となって、中国、モンゴル、タイなどが参加する「アジア恐竜協会」を7月に設立します。 ・海外の著名な恐竜研究者を集めた「国際恐竜シンポジウム」を来年3月に開催するとともに、協会ホームページ等により最先端の恐竜研究情報を発信し、アジアの恐竜研究における本県の地位を確立します。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>恐竜博物館が各国に呼びかけ、準備を進めてきた「アジア恐竜協会」を、中国・韓国・モンゴル・タイ・ロシアの参加を得て、7月12日に設立しました。</p> <p>また、設立記念イベントでは、各国恐竜化石発掘状況の紹介や、子どもたちと各国研究者が直接交流する恐竜シンポジウムを開催しました。</p> <p>26年3月21日から23日まで、「アジア恐竜国際シンポジウム」を開催し、アジア地域の恐竜研究について議論と相互交流を深めました。</p> <p>今後も、国際シンポジウム開催や、常設した協会ホームページを活用し、恐竜博物館がアジア恐竜研究の拠点として最先端の恐竜研究情報の発信や若手研究者への支援などを行っていきます。</p>	
<p>○「一乗谷朝倉氏遺跡」の魅力創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡内の電柱電線の地中化を進めるとともに、桜の植樹や自生する花々の種を採取・育苗し植栽するなど、歴史的空間にふさわしい景観形成を進めます。 ・来訪者がスマートフォンなどで遺跡情報を得られる仕組みを7月から導入するなど、遺跡案内体制を強化します。 ・「戦国あさくら市」の定期開催など、遺跡内各所での食や土産物の提供体制を充実します。 ・資料館では、9月に大型企画展を開催するほか、「逸品展」を拡大し、発掘箇所ごとの未公開資料展示を始めるなど、新たに所蔵資料を年間500点程度公開し、展示のレベルアップを図ります。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡の新たな魅力創出として、遺跡中央部(朝倉大橋付近)の電線類の地中化や、ボランティアによる植生調査・植栽を行うなど、歴史的空間にふさわしい景観づくりを推進しました。</p> <p>また、7月から来訪者のスマートフォンなどを通して、遺跡内40地点の音声案内を開始したほか、3月には古地図情報や英語による音声案内も追加するなど、機能を強化しました。</p> <p>復原町並では、伝統工芸品や地元の食を販売する「戦国あさくら市」を夏と秋に4回開催し、5,100人が来場しました。新たに県内事業者と連携した菓子の試作販売を行うなど、遺跡内における食や土産物の提供体制を充実させました。</p> <p>資料館では、9月に文武を極めた戦国朝倉の文化を展示した大型企画展を開催したほか、テーマや発掘箇所ごとの未公開出土品を公開する「逸品展」を6回開催するなど、未公開資料500点以上を新たに公開し、資料館の入館者増に努めました。</p>	
<p>〔一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数 5万人 (平成24年度 4万4千人)〕</p>		<p>〔一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数 5万人〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>○「食」ブランド化の推進と販路拡大 【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地酒、今庄つるし柿など、客観的な良さを持っていながらあまり全国に知られていない県産食材を食の分野の第一人者などに評価してもらい、情報発信や外商活動に活用します。 ・食の専門誌やフードジャーナリストなどのメディア関係者への売り込みを強化し、ふくいの「食」を全国へ発信します。 ・素材にこだわる都市圏の一流ホテルや高級レストランなどに若狭ぐじや上庄里芋等旬の食材を売り込む「外商活動（アタック100）」を展開します。 ・県産食材を集中的に販売・提供する「福井フェア」を、都市圏の有名百貨店や一流ホテルで継続的に開催し、定着を図ります。 ・新たに北関東エリアの有名百貨店などで「福井フェア」を開催します。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>全国に誇ることができる県産食材である、地酒・今庄つるし柿・水ようかんについて、それぞれの特色や歴史を整理し、テレビ番組や食の専門誌を通じ、全国に向けた発信を強めたほか、料理専門誌や百貨店などと共働で、都市圏におけるPRや一流レストランへの販路開拓を行いました。</p> <p>また、海外で活躍するシェフや有名パティシエから高い評価を得たことから、今後はこうした評価を活かし、その良さや魅力を伝えていきます。</p> <p>越前がにや若狭ぐじなど本県の旬の食材や食文化を、食や旅行の大手専門誌、富裕層向けの会員誌、全国放送のテレビ局などに働きかけ、全国に情報発信しました。</p> <p>都市圏や関西圏の高級レストランや料亭など109件に外商活動を展開し、ホテル椿山荘東京、ホテルニューオータニ、都ホテルニューアルカイクのレストランなど新たに22業者と県産食材活用の契約を成立することができました。</p> <p>日本橋三越本店や阪急うめだ本店など大手百貨店、ホテルニューオータニや京王プラザホテルなど有名ホテルで「福井フェア」を20件開催しました。</p> <p>特に、新幹線金沢開業により誘客拡大が期待できる北関東エリアにおける開催を百貨店やホテルへ働きかけ、そごう大宮店、メトロポリタン高崎などで「福井フェア」を実現、ふくいの食の売り込みを強化しました。</p>	
<p>外商活動による新規契約成立件数（累計） 110件 （平成24年度末 93件） チャレンジ目標 120件</p> <p>百貨店、高級スーパーでの福井フェア開催 件数 10件 （平成24年度 8件）</p>		<p>外商活動による新規契約成立件数（累計） 115件</p> <p>百貨店、高級スーパーでの福井フェア開催件数 10件</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造																		
項目		実施結果																			
<p>◇ 観光を福井のリーディング産業へ ○観光地の魅力アップの加速</p> <p style="text-align: center;">【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光地や施設の魅力向上を図るため、温泉情緒溢れるあわらのまちなか整備、敦賀金ヶ崎の「鉄道と港」のまちづくり、三方五湖周辺の景観づくりを進めます。 新たに、福井市浜町、永平寺門前、今庄宿および小浜西組周辺における観光まちなみ整備にかかる市町の計画策定を支援し、観光地の魅力アップを加速します。 自然景観、歴史・文化、食などの観光素材に加え、四季折々の花、夕日や星空、ホテル、漁火などの光を活かした「福井ならでは」の素材の掘り起こしや磨き上げ、まちなか等を周遊する仕組みづくりなどの支援を進めます。 県内宿泊施設等を対象にしたフェイスブック等のインターネット活用研修を開催し、情報発信力を強化、宿泊客増加を図ります。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">観光客入込数</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1, 100万人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">(平成24年 977万人)</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">チャレンジ目標</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: right;">1, 150万人</td> </tr> <tr><td colspan="2"> </td></tr> <tr> <td>県内宿泊観光客数</td> <td style="text-align: right;">250万人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">(平成24年 242万人)</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">チャレンジ目標</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: right;">260万人</td> </tr> </table> </div>		観光客入込数	1, 100万人		(平成24年 977万人)	チャレンジ目標	1, 150万人			県内宿泊観光客数	250万人		(平成24年 242万人)	チャレンジ目標	260万人	<p>〔成果等〕目標を一部達成しませんでした。</p> <p>北陸新幹線金沢開業および舞鶴若狭自動車道全線開通に向け、ソフト・ハード両面から観光地のスケールアップを図りました。</p> <p>ハード面では、県が行う野外恐竜博物館の整備、若狭歴史民俗資料館のリニューアル、一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップなどのほか、市町の観光地の魅力アップを支援しました。</p> <p>あわら温泉では、3月に湯のまち広場に足湯を整備したほか、来年度は歩道の石畳化など、楽しくまち歩きできる温泉情緒あふれる華やぎのまちづくりを進めます。</p> <p>敦賀・金ヶ崎では、赤レンガ倉庫を活用し、27年秋に向けてジオラマ棟、レストラン棟の整備を行い、「鉄道と港のまち」づくりを進めます。</p> <p>三方五湖周辺では、花と光をテーマに、27年3月に向けて湖畔に面した道の駅の整備や縄文ロマンパークの整備などを進めます。</p> <p>また、新たに4市町の支援も始め、福井市浜町（明治初期の歴史的建造物を活かした観光スポットの整備）、永平寺門前（禅の里の雰囲気醸し出すまちなみ整備）、今庄宿（歴史的な建物や空き家・空き店舗の活用によるまちなみ保全）、小浜西組周辺（歴史的な建物である旧旭座の移築・活用や三丁町の無電中化による景観整備など）それぞれの整備計画の策定を支援しました。今後、これらの本格的な整備を応援していきます。</p> <p>ソフト面では、本県が誇る食・歴史・文化・自然体験などの観光素材を「福井ならでは」の特別な観光素材へ磨き上げを行い、みどころダイノツアーや若狭路ご膳など新たな観光資源を創出しました。</p> <p>また、まちなかの旬の情報を掲載したあわら・三国のまちあるき手帳「k i n e n o（きねの）」の作成や、大野の歴史や商店街のお宝を活かしたまち歩きイベント、若狭和田におけるイルミネーションなど、地域の観光づくり活動を行う12団体を支援し、県全体の観光地の魅力アップを図りました。</p> <p>県内宿泊施設の情報発信力を強化するため、県内6会場でインターネットを活用した宿泊予約サイト・フェイスブック研修を行い、延べ86社103名が参加、今後の宿泊客増加への取組みを支援しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">観光客入込数</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1, 034万人（見込）</td> </tr> <tr> <td>県内宿泊観光客数</td> <td style="text-align: right;">253万人</td> </tr> </table> </div>		観光客入込数	1, 034万人（見込）	県内宿泊観光客数	253万人
観光客入込数	1, 100万人																				
	(平成24年 977万人)																				
チャレンジ目標	1, 150万人																				
県内宿泊観光客数	250万人																				
	(平成24年 242万人)																				
チャレンジ目標	260万人																				
観光客入込数	1, 034万人（見込）																				
県内宿泊観光客数	253万人																				

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>○二次交通アクセスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> あわら温泉を起点とする恐竜博物館への直行バスおよびあわら三国特急バスをルートや時期を見直して運行します。 新たに金沢駅からあわら温泉への直行バスの実証運行を行います。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>二次交通対策として、観光地を結ぶバスの実証運行に取り組み、あわら温泉と恐竜博物館を結ぶ直行バス（あわら恐竜号）は、7月20日から44日間毎日運行（1日2往復）し、今年度は冬期の利便性を高めるため11月23日から3月30日までの土日祝（一部）で30日間運行しました。</p> <p>また、あわら温泉と三国の周辺の巡回バス（あわら三国特急バス）は、7月から10月までの休日等33日間運行（1日8便）しました。</p> <p>今年度新たに、北陸新幹線の当面の終着駅となる金沢駅から本県への観光客の交通手段の確保と宿泊客増を目的とした直行バスの実証運行を行い、7月20日から3月末まで毎日運行（1日1往復）しました。</p> <p>今後、これらの実証運行結果に基づき、運行時期やルートを見直し、観光客の利便性向上を図ります。</p>	
<p>○若狭地域の歴史文化を活かした誘客拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 若狭地域の歴史文化を発信するため、有形・無形の文化財の公開を地域やジャンルを拡大して実施します。 夜間公開やライトアップなど観光客の滞在時間の延長や宿泊につながる仕掛けをつくります。 秘仏など文化財の特別公開にあわせ小浜市やおおい町の寺社を巡るツアーバスを実証運行します。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>特別公開「みほとけの里 若狭の秘仏」を9月から10月まで、昨年度の小浜市エリアにおおい町大島半島エリアを加え、17か寺35件の文化財を公開し、延べ約1万人が訪れました。</p> <p>この公開期間中、寺院や庭園、伝統的なまち並みなど9か所でライトアップを実施し、これに合わせて夜間公開や茶会、音楽会などのイベントも実施しました。アンケート結果では、約7割が県外から来訪し、そのうち半数以上が県内に宿泊しました。</p> <p>また、特別公開の寺院と通常公開寺院を巡るガイド付きバスも運行し、15コース38便に436人が乗車、昼食の「若狭路ご膳」や、小浜市内の夜間景観も楽しんでいただくなど、観光客の満足度を高めました。</p>	
<p>〔 特別公開の文化財 30件 （平成24年度 20件） 〕</p>		<p>〔 特別公開の文化財 35件 〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造						
項目		実施結果							
<p>○嶺南地域の昼食メニューの普及・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞鶴若狭自動車道の全線開通に向け、市町や若狭湾観光連盟などと共働して、嶺南地域の飲食店や民宿等に働きかけ、地元の食材を活かした手頃な価格の昼食メニューを提供する店舗を増やします。 提供店舗やメニューの紹介については、ホームページを活用して情報発信するとともに、夏休みまでにパンフレットをサービスエリアや道の駅などに配布し、誘客につなげます。 		<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。</p> <p>地元市町や観光協会、商工会議所等と共働で、嶺南地域の新鮮な海・里・山の幸を活かした昼食メニュー「若狭路ご膳」を開発、86店舗で102メニュー（期間限定メニューを含む）が提供されており、今後も、提供店舗のさらなる普及拡大に取り組みます。</p> <p>「若狭路ご膳」の提供店舗やメニューはホームページ「ふくいドットコム」等で紹介しているほか、新たにPRパンフレットを作成し、大都市圏におけるイベントや出向宣伝、7月からは県外の高速道路サービスエリアや嶺南地域の道の駅などで配付するなど、「若狭路ご膳」の認知度を高め、利用客を拡大する取り組みを行いました。</p>							
<table border="1"> <tr> <td>昼食メニュー提供店舗数</td> <td>100店舗</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ目標</td> <td>120店舗</td> </tr> </table>		昼食メニュー提供店舗数	100店舗	チャレンジ目標	120店舗	<table border="1"> <tr> <td>昼食メニュー提供店舗数</td> <td>86店舗</td> </tr> </table>		昼食メニュー提供店舗数	86店舗
昼食メニュー提供店舗数	100店舗								
チャレンジ目標	120店舗								
昼食メニュー提供店舗数	86店舗								
<p>○観光情報発信と誘客プロモーションの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線沿線駅を中心に、市町や観光協会、観光事業者等とともに、地元メディアや旅行会社に対する営業訪問を強化します。 観光プロモーション活動に東京駅と上野駅も加え、大型広告を上野駅と大宮駅に掲出するほか、今年度新たに制作する観光プロモーション映像を利用した魅力発信を行い、福井の認知度向上を図ります。 恐竜をモチーフにした子ども向け映画を活用した本県のPRコマーシャルを首都圏で放映し、ファミリー層をターゲットにした誘客プロモーションを強化します。 関西・中国エリアを対象に、「食」と「海」を中心とした誘客拡大を図るため、NEXCO中日本、西日本等と、舞鶴若狭自動車道を活用した定額乗り放題キャンペーンの実施に向けた協議を進めます。 		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>8月に初めて東京駅周辺で、本県トップブランドの「恐竜」と福井の「食」の魅力を集中的にアピールを行いました。東京丸の内で開催した「大恐竜展」は19万人が来場し、併せて実施した県内観光地のPRや福井の美味しい食や地酒等の販売などを行う出向宣伝も好評を得ました。</p> <p>また、東京駅およびその周辺の37店舗で開催した「ニッポンおいしいフェア 食の國福井」では、越のルビーや吉川なす、甘えびなどの県産食材を使用した特別メニューを提供するなど、福井の「食」の魅力を発信しました。</p> <p>北陸新幹線沿線では、11月に高崎駅と長野駅で出向宣伝を行い、1月には、さいたま市（そごう大宮店）で初めて「越前・若狭の物産と観光展」を開催、大宮駅でも「恐竜」と「かに」をデザインした大型広告の掲出や出向宣伝などを行いました。今後も、首都圏や新幹線沿線における情報発信を強め、より多くの方が福井への関心を高めるよう努めます。</p> <p>恐竜博物館が主要な舞台で登場する子ども向け映画が全国上映される機会を捉え、東京、大宮、高崎、長野などの映画館で、映画の映像と本県観光地の映像をミックスしたPRコマーシャルを放映し、作品の感動と余韻を本県への観光誘客につなげ、恐竜博物館の入館者増などに寄与しました。</p> <p>舞鶴若狭自動車道全線開通を契機として、嶺南・嶺北の交流促進、県外からの誘客拡大を図るため、関係市町や観光団体とともに実行委員会を設置、26年7月から11月まで実施する「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンの準備を進めました。また、この時期に合わせた県内高速道路区間を定額で乗り放題できるキャンペーンが実現できるよう、NEXCO中日本、西日本と協議を進めました。</p> <p>また、2月に舞若道県内区間の愛称を「若狭さとうみハイウェイ」と決定、気軽に若狭路へ訪れていただけるよう広く発信します。</p>							

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造																
項目		実施結果																	
<p>○「福井がわかる」ニューツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手旅行会社と共働で、恐竜博物館での特別プログラムや奥越地域の自然を体験する滞在型ツアーを夏までに実施します。 ・夏に関西・中京圏から恐竜博物館直行バスを運行し、車内での特別解説や現地での化石発掘体験を組み合わせた日帰りツアーを実施します。 ・関西・中京圏の大学への営業訪問を強化し、昨年度誘致に成功した延べ5万人を上回る学生合宿を誘致します。 ・石川県とともに、関東地区や信越地区など北陸新幹線沿線の中学生や高校生を対象とした恐竜や体験漁業などを組み合わせた旅行コースを企画し、両県で協力して誘致します。 ・「恐竜」など本県が国際的にアピールできる分野を中心に、国や都市圏の大学・学術機関、各種団体などへの営業訪問活動を通じ、300人以上が参加する大型のコンベンションを誘致します。 <table border="1" data-bbox="146 1214 657 1482"> <tr> <td>県外からの教育旅行者数</td> <td>6万8千人</td> </tr> <tr> <td>(平成24年)</td> <td>6万5千人</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ目標</td> <td>7万人</td> </tr> <tr> <td>県内におけるコンベンション開催件数</td> <td>265回</td> </tr> <tr> <td>(平成24年度)</td> <td>263回</td> </tr> <tr> <td>チャレンジ目標</td> <td>280回</td> </tr> </table>		県外からの教育旅行者数	6万8千人	(平成24年)	6万5千人	チャレンジ目標	7万人	県内におけるコンベンション開催件数	265回	(平成24年度)	263回	チャレンジ目標	280回	<p>〔成果等〕目標を一部達成しませんでした</p> <p>大手旅行会社に働きかけ、恐竜博物館見学と奥越地域における化石発掘体験、自然や食の体験などを組み合わせた滞在型ツアーを7月から8月にかけて19回実施し、都市圏から703名の参加を得て、恐竜博物館への集客力を周辺観光の誘客拡大に結びつけることができました。</p> <p>夏休み期間中、京都・名古屋発の恐竜博物館行き直行バスを23回運行し、延べ866名が利用、博物館見学や化石発掘体験だけでなく、車中における恐竜博物館展示解説員による特別解説など、利用者の満足度を高めました。</p> <p>本県への学生合宿誘致を拡大するため、関西・中京圏に加え、首都圏の旅行会社や大学などに、昨年度3割増となる132件の直接訪問を行い、延べ5万7千人の学生合宿誘致に成功しました。</p> <p>来年度の北陸新幹線金沢開業を絶好の機会と捉え、石川県と連携し、新幹線沿線の関東・信越などの中学・高校を訪問営業し、教育旅行の誘致を働きかけました。引き続き誘致実現を目指し取り組みます。</p> <p>各種団体等への営業訪問活動により、千人規模の参加者を集めた日本鼻科学会や日本看護学会など、28の全国大会が県内で開催されたほか、300人以上が参加する大型コンベンションも18回開催されるなど、全国規模のコンベンション誘致を実現しました。</p> <table border="1" data-bbox="676 1214 1449 1384"> <tr> <td>県外からの教育旅行者数</td> <td>6万8千人</td> </tr> <tr> <td>県内におけるコンベンション開催件数</td> <td>227回</td> </tr> </table>		県外からの教育旅行者数	6万8千人	県内におけるコンベンション開催件数	227回
県外からの教育旅行者数	6万8千人																		
(平成24年)	6万5千人																		
チャレンジ目標	7万人																		
県内におけるコンベンション開催件数	265回																		
(平成24年度)	263回																		
チャレンジ目標	280回																		
県外からの教育旅行者数	6万8千人																		
県内におけるコンベンション開催件数	227回																		
<p>○広域新観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年秋の北陸デスティネーションキャンペーンに向けて、富山県、石川県およびJRと共同し、誘客活動や観光客受入態勢の整備を進めます ・越前加賀エリアについて、周遊プランの造成やレンタカー乗り捨て料金の割引キャンペーンの実証など、北陸新幹線開業に向けてエリア誘客を強化します。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>6月に、富山・石川両県、JR等と北陸デスティネーションキャンペーン実行委員会を設立し、北陸新幹線金沢開業を契機とした観光宣伝や誘客促進を拡大する官民協働の推進体制を整えました。また、県内でも受け入れ態勢の整備に向けて、市町、観光協会等との意見交換や情報交換を行い、観光素材の磨き上げを進めました。</p> <p>石川県境をまたぐエリアにおける周遊観光を促進するため、1月から石川県等と協同して、地元特産品をプレゼントするレンタカーキャンペーンを両県のレンタカー協会の協力の下で進めました。県域を越えて乗り捨てた場合に発生する追加料金の軽減を含めたレンタカープランの旅行商品化は、レンタカー会社や旅行会社と協議を進めています。</p> <p>また、首都圏で開催された観光博覧会・旅フェアへの出展や、モニターツアーの実施を首都圏旅行会社に働きかけて実現するなど、誘客拡大に向けた取り組みを強めました。</p>																	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>2 生活のなかに楽しむ県民文化 ◇ 生活に福井の文化 ○文化施設の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外からも集客できる質が高く話題性のある企画展を計画的に開催するため、夏までに26・27年度展覧会の企画案を作成します。 ・学芸員で構成するミュージアム活性化研究会を設置し、美術館特別館長等からの指導・助言を得て、学芸員の資質向上を図ります。 <p>(美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ミケランジェロ展」、「岡倉天心展」では、4月から県内書店・飲食店とタイアップしたPRや美術番組での放映、美術系雑誌への掲載などを働きかけ、県外からの誘客を強化します。 ・学校鑑賞会の実施や子どもが作品を間近で鑑賞できるバックヤードツアーの開催など、美術館を利用した美術教育を推進します。 ・集客の目玉となる館蔵コレクションを充実するため、資料調査を進めます。 ・2月下旬から、本県所蔵の小野忠弘コレクションと青森県所蔵の棟方志功コレクションの交換展を開催します。 <p>(歴史博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示を本県の歴史を通史的に分かりやすく紹介する展示に見直します。 <p>(若狭歴史民俗資料館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年夏のオープンに向け、絵巻や屏風などの文化財や伝統的な祭りで使われる大型の山車飾りなどのシンボル展示、普段見る機会の少ない仏像の順次公開など、資料館の全面的なリニューアルを進めます。 <p>〔 歴史博物館の入館者数 8万5千人 (平成24年度 8万3千人) 〕</p> <p>〔 美術館の入館者数 20万人 (平成24年度 23万人) 〕</p>		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>県立美術館に設置した特別館長の指導を得て、7月までに26・27年度の展示企画を検討し準備を進め、作品をわかりやすく解説する「見どころ解説会」を新たに実施するなど、学芸員の意識改革とサービス向上を図りました。</p> <p>また、4館学芸員による研修会を開催し、SNSの活用やHPの開設など情報発信を強化したほか、研究成果を分かりやすく解説するシリーズ講座の開催につなげました。</p> <p>美術館については、4月上旬から県内書店・飲食店とタイアップしたPRを開始し、「ミケランジェロ展」には約8万8千人、「空前絶後の岡倉天心展」に約2万2千人が来場し、特別展の年間入館者数は、11万人を超え、昭和52年の開館以来最高を記録しました。</p> <p>これらの特別展では、観光面で、大手旅行会社や県内宿泊施設と連携し、バスツアーや観覧券付き宿泊プランの実施など誘客拡大につなげたほか、教育面でも、学校鑑賞会などを実施し1万8千人を超える県内の小中学生に本物を体験する機会を提供しました。</p> <p>また、2月から、青森県との美術館交流事業として、「棟方志功展」を開催し約8千人の方に観賞いただきました。</p> <p>歴史博物館については、絵馬、笏谷石など「ものづくり」を中心とした展示を、中近世（鎌倉時代～江戸時代）を中心にして歴史の流れをわかりやすく紹介する展示に見直しました。</p> <p>若狭歴史民俗資料館については、歴史文化の宝庫である「若狭」を学び楽しむ新たな歴史・文化観光拠点「若狭歴史博物館」として、本年夏のリニューアルオープンに向け、工事に着手し、「若狭歴史博物館」への名称変更や観覧料変更など、開館の準備を進めました。</p> <p>〔 歴史博物館の入館者数 8万6千人 〕</p> <p>〔 美術館の入館者数 20万6千人 〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>○子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが学校、地域において、身近に芸術・文化活動に親しむことができるよう、県立美術館の所蔵作品を活用した学校等での鑑賞授業や、地域の文化会館等での子ども向けコンサートを開催します。 小学校5年生全員に、県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートなど本物の芸術文化に触れる機会を提供します。 新たに「ふくい天心美術塾」(ワークショップ)の開催など中高生などが一流のアーティストから指導を受ける機会を拡充します。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>子どもたちの芸術・文化体験を推進するため、県立美術館企画展の学校鑑賞会(約18千人参加)や、同館の所蔵作品を学校の授業で直接鑑賞する「ふれあいミュージアム」(約1千2百人参加)、県立音楽堂や地域の文化会館等で児童・園児達に音楽に関心を持ってもらうきっかけづくりとする「ふるさと子どもコンサート」(約3千7百人参加)などを開催しました。</p> <p>また、県内の小学5年生全員を対象に県立音楽堂におけるプロオーケストラの鑑賞と、美術鑑賞を組み合わせた「ふれあい文化子どもスクール」(約7千5百人参加)を開催するなど、子どもたちに芸術文化に親しんでもらう場を提供しました。</p> <p>このほか、福井の文化芸術を担う人材育成として、県内7か所で、国内第一線で活躍する美術作家を講師とした「ふくい天心美術塾」(約1万7千人参加)などを開催し、県内の中高生などが一流の芸術・文化に触れる機会を拡大しました。</p>	
<p>一流の芸術・文化を体験する子どもの数 7万3千人 (平成24年度 7万1千人) チャレンジ目標 7万4千人</p>		<p>一流の芸術・文化を体験する子どもの数 7万4千人</p>	
<p>3 豊かな環境、もっと豊かに ◇ 景観を県民資産に ○景観資源の保全と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと福井の美しい景観を守り育てていくため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家保存活用推進地区」の認定・指定を進め、街並みの緑化や、夜間景観の演出など、地域住民による景観を活用・保全する活動を活性化します。 より多くの人に、実際に百景を訪れてふるさとの美しい景観に親しんでいただくため、市町や地域住民と協力し、新たに百景ビューポイントの整備を進めます。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>福井ふるさと百景選定地で、夜間景観の創出や植栽、自然体験会の実施など景観の保全・活用に取り組む「福井ふるさと百景活動団体」を今年度新たに8団体認定し、その活動を支援しました。</p> <p>また、伝統的民家が集積している福井らしい集落やまち並み景観の保全に取り組む「伝統的民家群保存活用推進地区」を今年度新たに6地区指定し、その活動を支援しました。</p> <p>福井ふるさと百景に選定された景観を眺望できるビューポイントのうち5か所について、市町の協力を得て、散策路の整備、ベンチ等の設置などを行いました。</p>	
<p>景観づくり活動に取り組む団体数 累計 20団体 (平成24年度末現在 13団体)</p> <p>伝統的民家の集積を活かした街並みや集落景観の保存活用に取り組む地区数 累計 18地区 (平成24年度末現在 12地区)</p>		<p>景観づくり活動に取り組む団体数 累計 21団体 (平成25年度 8団体増)</p> <p>伝統的民家の集積を活かした街並みや集落景観の保存活用に取り組む地区数 累計 18地区 (平成25年度 6地区増)</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 恵造
項目		実施結果	
<p>4 「希望ふくい」のふるさとづくり</p> <p>◇ 選ばれるふるさと</p> <p>○県外からの定住・交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町と共動して、定住相談会を県外で開催するなど、定住希望者に対する相談体制を充実させます。 市町と共動して、空き家を活用した定住・交流の拠点施設を整備し、県外在住者に宿泊体験等の機会を提供します。 <p>〔 新ふくい人の数 330人 （平成24年度 321人） 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県外からの定住促進として、県外で働く社会人の親などを対象としたUターンセミナーのほか、初めて10月東京と11月大阪に市町との合同移住定住相談会を開催するなど、定住希望者に対する相談体制を充実させました。</p> <p>空き家を活用し、定住・交流の拠点施設として改修等を行う市町を応援しており、今年度は、勝山市平泉寺地区で空き土蔵を改修し、県外在住者が田舎暮らし体験や農業体験を行うことができる拠点施設の整備を行いました。今後とも、市町と共動し、定住交流の促進を図ります。</p> <p>〔 新ふくい人の数 339人 〕</p>	
<p>○「ふるさと納税制度」の普及推進</p> <ul style="list-style-type: none"> リピーター確保に重点をおいた営業活動を行い、全国トップクラスのふるさと納税実績を目指します。 都道府県を通じて全国の自治体に、制度普及のための取組みやふるさと納税実績などの掲載を働きかけ、「ふるさと納税情報センター」の内容を充実させます。 年末調整で控除できる仕組みの実現など、寄付者にとってより利用しやすい制度改正を他県とともに国に強く働きかけます。 <p>〔 ふるさと納税寄付金の寄付額 75,000千円 （平成24年度 56,419千円） チャレンジ目標 80,000千円 〕</p> <p>※24年度まではふるさと営業課で受け付けた寄付金のみを計上</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ふるさと納税は、市町一体となったPRや、県人会や同窓会を通じ、約6,500人（約62団体）に対し、直接制度の周知と協力依頼を行ったほか、県内商工会議所等に機関広報誌への掲載、研修における資料配付等を依頼、県外在住従業員への呼びかけなど、企業を通じた制度PRも行いました。</p> <p>6月に「ふるさと納税情報センター」ホームページをリニューアルし、全国の自治体に働きかけ、制度普及の取組事例や納税実績などの掲載内容を充実させたほか、各自自治体のふるさと納税サイトへの直接アクセスを可能とするなど、利用者の利便性向上を図りました。</p> <p>ふるさと納税制度が、寄付者にとってより利用しやすい制度となるよう、年末調整で控除できる仕組みの制度改正や個人住民税にかかる控除対象寄付金の上限引き上げなどを国へ継続要望しました。引き続き、制度改正が実現できるよう国に働きかけます。</p> <p>〔 ふるさと納税寄付金の寄付額 9,006万円 〕</p>	

役職	観光営業部長	氏名	伊藤 惠造
項目		実施結果	
<p>○国際交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界5大陸（15か国）の子どもたちを本県へ招待する「世界少年野球大会」を8月に開催し、県民との交流行事など国際交流の機会を拡大します。 海外から研修生等の派遣・受入を行い、県民が外国人とふれあう機会を増やします。 		<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>8月に本県で初めて「世界少年野球大会」を開催し、世界15か国から300人を超える子どもたちが参加。野球教室や国際交流試合、地域住民との交流行事などを通じて、県民の国際交流の機会を拡大しました。</p> <p>ブラジル、アルゼンチン、中国から、県内の行政機関や民間企業に7名の研修生を受け入れ、人材育成を図ったほか、県民とふれあう機会の増加に努めました。</p> <p>また、本年度は浙江省との友好提携20周年であることから、10月に浙江省友好交流団を受け入れ、2月には福井県友好訪問団を派遣しました。今後、経済・観光・教育等の分野における交流拡大や青少年の相互交流を推進し、両県省の発展につなげていきます。</p>	